

(様式1)

校 種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 3	学校名	宇都宮市立 峰 小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	-------------

令和2年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

①健康でたくましい子【元 気】

- ・ 自他を大切にし、明るく元気に生活する児童
- ・ 時と場に応じ、はきはきとあいさつや返事をする児童
- ・ 自分の健康に関心をもち、規則正しく生活する児童
- ・ 自分の目標を持ち、ねばり強く頑張る児童

②よく考え進んで学ぶ子【やる気】

- ・ 確かな学力を身に付け、進んで学習する児童
- ・ 知的好奇心に溢れ、自ら課題に気づき、主体的に解決する児童
- ・ 他の意見を尊重し、自分の考えと比べながら最後までしっかり話を聞く児童
- ・ 自分の考えを持ち、進んで発信する児童

③心豊かで思いやりのある子【思いやり】

- ・ 進んでルールやマナーを守り、誠実に行動する児童
- ・ 互いのよさを認め合い、進んで友達と協力する児童
- ・ 相手を尊重し、正しい言葉遣いができる児童
- ・ 感謝の気持ちを持ち、地域に貢献できる児童

2 学校経営の理念 テーマ 「地域とともにある学校」

教育基本法，学校教育法及び同施行規則，学習指導要領，栃木県教育委員会の指導の指針，宇都宮市教育委員会第2次学校教育推進計画，第2次宇都宮市学校教育スタンダード，令和2年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また，本校の教育目標の達成のため，児童の実態や児童の発達段階，特性，地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに，うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより，全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

3 学校経営の方針

- (1) 児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校を目指し，児童が主役となる場を意図的に設定し，充実感や達成感を味わうことにより，自ら進んで行動できる児童を育成する。
- (2) 長所を引き出し，認め励ます教育を実践する中で，自己の成長を実感させ，自己肯定感を高める。規範意識の醸成，望ましい人間関係や社会性の育成に努めるために，学校教育全体をととして人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。
- (3) 楽しく分かる授業の実践ときめ細かな指導の充実を通して学習意欲を高めるとともに，学びに向かう集団づくり，家庭と連携した家庭学習を推進して，学力の向上を図る。
- (4) 生涯にわたって健康で安全な生活を実現する力を育むために，不審者・災害訓練，交通安全教室などを通して身を守るための行動力の育成，健康や体力の増進，望ましい食習慣の確立に努める。

- (5) 地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し、信頼される学校の実現を目指す。
- (6) 教育公務員としての自覚と責任を持ち、コンプライアンスを遵守するとともに、勤務時間を意識した働き方改革と校務の効率化、事業内容の検討・見直しを推進する。
- (7) 教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態を工夫するとともに、校内研修を活性化させ、教育専門職としての資質と能力の向上を目指す。
- (8) ユニット部会を活用して教職員の学校経営への積極的な参画を促すとともに、組織マネジメントの考えに基づき、全教職員協働による教育目標の達成に努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り
心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進
- (2) 地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進
- (3) 外部の学校評価等を活用し、地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現
- (4) 地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進
- (5) 地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- (1) 学校運営
 - ・重点活動〔峰小 元気・やる気・思いやり活動〕の推進
 - ・学校経営への参画意識の高揚と教職員による組織的で効率的な企画・運営の推進
 - ・児童や地域の実態、地域の環境に即した教育計画の作成と実践
 - ・自分の夢や目標の実現に向けてたくましく生きる児童の育成を目指した教育活動の推進
- (2) 学習指導 **【やる気】**＝「自ら進んで表現できる児童の育成」
 - ・基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指した日々の学習とまとめの学習の充実、家庭学習の習慣化
 - ・「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開と個に応じた指導の充実
 - ・学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した学習展開の工夫
 - ・「学習の約束」を活用した学習の準備、返事、チャイムの合図の順守の徹底
 - ・読書活動の推進・充実と読解力の育成
- (3) 児童生徒指導 **【思いやり】**＝「自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」
 - ・「峰小よい子の一日」や「陽東地域学校園児童生徒の目標」を活用したルールやマナーを守る態度の育成
 - ・感謝の集いやいじめゼロ集会の実施、人権標語の作成による感謝する心や人を思いやる心、生命や人権を尊重する態度の育成
 - ・「道徳科」の指導の充実と道徳的実践力の育成
 - ・共に学び合う場や互いの良さを認め合う場の意図的な設定による望ましい人間関係の醸成
 - ・確かな児童理解に基づく自己肯定感を高める声掛けの継続と個を生かす教育の実践
 - ・家庭や各種団体と連携したあいさつ運動の推進
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
 - 【元気】**＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」
 - ・元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加とあいさつ、返事の励行

- ・「元気っ子健康体力チェック」の活用と、自己の健康に関心を持ち、進んで運動に親しむ態度の育成
- ・歯磨きボランティアの活用による歯磨き指導（きらきらクラブ）の充実
- ・視力低下を防ぐ「目の体操」「姿勢体操」の指導
- ・望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実
- ・教育活動全体を通じた安全教育の充実・徹底，危険回避能力の育成

6 学習指導，児童生徒指導，健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

- (1) 育てたい資質・能力
 - ・地域の良さに気付き，地域の環境を大切にしようとする態度
 - ・地域の方々に対する感謝の心や身近な人々に対する思いやりの心
 - ・協力して問題解決に取り組もうとする態度や，主体的に自分の役割を果たそうとする実践力
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）
 - ◇① 児童会活動や集会活動，縦割班活動等において，児童が主体的に活動し，活躍できる場を意図的に設定し，積極的な公開をすることにより，地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。
 - ◇② 地域協議会を窓口に，保護者や地域住民及び各種外部団体の学校教育への支援や参画を推進する。
 - ③ マネジメントシステム等による保護者や地域からの学校評価を児童や教職員の意欲及び成果向上の道具（ツール）として生かす。
 - ◇④ 地域の教育資源を有効に活用し，各種交流体験活動を充実させるとともに，宇都宮大学や各種関連機関との連携を強化する。

8 本市の重点施策・事業との関連

- (1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）
 - ①基本的考え
 - ・地域の一員であるという自覚を培い，地域に感謝し，地域に貢献しようとする態度を育成するため，地域の行事への積極的な参加を促す。
 - ・地域に潜在する教育資源を生かすために各種団体との連携を図る。
 - ②主な取組
 - ・地域協議会や地域，宇都宮大学などの行事を通して，地域住民との交流を図る。
 - ・地域住民との交流により，地域の行事への積極的な参加を促す。
 - ・地域教材を扱った授業内容を充実させ，児童の地域への関心を高める。
 - ・「あいさつ運動」の実施や日常のあいさつの奨励により，児童と地域住民との交流を深める。
 - ・地域のボランティア活動を推進し，学校支援の仕組みを構築する。
- (2) 小中一貫教育・地域学校園
 - ①基本的考え
 - 「地域の教育力を生かし，地域とのかかわりを通して，確かな学力の定着を図り，心豊かでたくましく生きる子どもの育成」をテーマに，義務教育9年間で育てたい「目指

す子ども像」を掲げ、小中学校の教職員が児童の発達段階に応じた指導を積み重ねることで、児童生徒の学力の向上を図る。

②主な取組

- ・小中学校相互の特性を生かした小中交流授業を行うことで、中学校進学に対する児童の不安軽減を図るとともに、小中協働の意識を高め同歩調での児童生徒の健全な成長を目指す。
- ・地域学校園あいさつ運動を通して、小中学校の児童生徒及び教職員の交流活動を積極的に推進する。
- ・登校指導を同一日に実施し、児童生徒が安心して学校に通学できる環境の整備や児童生徒の生活規範の定着と安全指導の充実を図る。
- ・学習や生活に関する「地域学校園の約束」を活用し、陽東地域への所属感を高めるとともに、基本的生活習慣の育成や望ましい学習習慣の確立に努める。
- ・児童生徒指導カルテを活用して発達段階に応じた児童生徒指導を充実させるとともに、特別支援学級の交流を積極的に行い、小中学校間の特別支援教育における連携強化を図る。
- ・同歩調で歯みがき指導や目に関する健康教育を推進するなど、地域学校園内の教職員による協働の場の設定や活動内容を工夫しながら健康・安全教育、食育の推進と心の教育の充実を図る。
- ・学校園統一献立や共通「お弁当の日」、「お弁当コンクール」等を実施し、家庭での食に関する話題づくりのきっかけづくりをする。
- ・地域学校園の各学校のおすすめ本を紹介し、読書の幅を広げるとともに読書の質の向上を目指す。

(3) 不登校対策

①基本的考え

教育活動全般を通して、規範意識や思いやり、助け合いの心を育て、望ましい人間関係を築くとともに、いじめを自分たちの問題として捉え、正しく理解し、その解決のために主体的に行動できる児童を育成する。また、新たな不登校を生まないために、定期教育相談や「ともだちアンケート」等を活用し、児童理解に努め、問題の早期発見・早期対応を図る。

②主な取組

- ・Q-Uの結果を分析し活用するとともに、良好な人間関係作りに役立つソーシャルスキルトレーニングを日常的に実践し、安心して過ごせる居場所づくり、魅力ある学級づくりに努める。
- ・児童の自己肯定感を高めるために、認め励ます教育を推進し、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。
- ・日々の授業において、「できた・分かった」が実感できる「分かる授業」を実践する。
- ・一緒に活動する中で集団の中での子ども同士の関係の把握に努めるとともに、常に受容的な態度で児童に寄り添い、積極的に児童の話に耳を傾け、児童と教師との信頼関係の構築に努める。
- ・職員会議や朝の打ち合わせを活用し、児童の状況について教職員間の共通理解を図ると

ともに、新たな不登校を生まないために「1日休んだら電話連絡 2日続けて休んだら家庭訪問」を徹底する。

- 欠席状況共有シートを活用し欠席状況を把握するとともに、校内の教育支援委員会等を活用し、組織で不登校に対応する。